

幕別町水道事業給水条例の一部を改正する条例 新旧対照表

現 行 条 例	改 正 条 例
<p>○幕別町水道事業給水条例 (平成10年 3月13日 条例第16号)</p> <p>目次 第1章～第5章 略 <u>第6章 貯水槽水道 (第33条・第34条)</u></p> <p><u>第7章 補則 (第35条)</u> 附則</p> <p>第1章 総則 (目的) 第1条 この条例は、幕別町水道事業の給水についての料金及び給水装置工事の費用負担、その他の供給条件並びに給水の適正を保持するために必要な事項を定めることを目的とする。</p> <p>第2条～第34条 略</p>	<p>○幕別町水道事業給水条例 (平成10年 3月13日 条例第16号)</p> <p>目次 第1章～第5章 略 <u>第6章 貯水槽水道 (第33条・第34条)</u> <u>第7章 布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準 (第35条―第37条)</u> <u>第8章 補則 (第38条)</u> 附則</p> <p>第1章 総則 (目的) 第1条 この条例は、幕別町水道事業の給水についての料金及び給水装置工事の費用負担、その他の供給条件並びに給水の適正を保持するために必要な事項を定めるとともに、併せて<u>布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準を定めることを目的とする。</u></p> <p>第2条～第34条 略</p> <p><u>第7章 布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準</u> <u>(布設工事監督者を配置する工事)</u> <u>第35条 法第12条第1項に規定する条例で定める布設工事監督者が監督業務を行うべき水道の布設工事は、法第3条第8項に規定する水道施設の新設又は次の各号に掲げる増設若しくは改造の工事とする。</u></p>

現 行 条 例	改 正 条 例
	<p>(1) <u>1日最大給水量、水源の種別、取水地点又は浄水方法の変更に係る工事</u></p> <p>(2) <u>沈でん池、ろ過池、浄水池、消毒設備又は配水池の新設、増設又は大規模の改造に係る工事</u></p> <p><u>(布設工事監督者の資格)</u></p> <p>第36条 法第12条第2項に規定する条例で定める布設工事監督者が有すべき資格は、次のとおりとする。</p> <p>(1) <u>学校教育法（昭和22年法律第26号）による大学（短期大学を除く。以下同じ。）の土木工学科若しくはこれに相当する課程において衛生工学若しくは水道工学に関する学科目を修めて卒業した後、1年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(2) <u>学校教育法による大学の土木工学科又はこれに相当する課程において衛生工学及び水道工学に関する学科目以外の学科目を修めて卒業した後、1年6月以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(3) <u>学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、2年6月以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(4) <u>学校教育法による高等学校若しくは中等教育学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、3年6月以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(5) <u>5年以上水道の工事に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(6) <u>第1号又は第2号の卒業生であって、学校教育法による大学院研究科において1年以上衛生工学若しくは水道工学に関する課程を専攻した後、又は大学の専攻科において衛生工学若しくは水道工学に関する専攻を終了した後、第1号の卒業生にあつては6月以上、第2号の卒業生にあつては1年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(7) <u>外国の学校において、第1号若しくは第2号に規定する課程及び学科目又は第3号若しくは第4号に規定する課程に相当する課程又は学科目を、それぞれ当該各号に規定する学校において修得する程度と同等以上に修得した後、それぞれ当該各号に規定する最低経験年数以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p>(8) <u>技術士法（昭和58年法律第25号）第4条第1項の規定による第2次試験のう</u></p>

現 行 条 例	改 正 条 例
	<p><u>ち上下水道部門に合格した者（選択科目として上水道及び工業用水道又は水道環境を選択したものに限る。）であって、6月以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>（水道技術管理者の資格）</u></p> <p><u>第37条 法第19条第3項に規定する条例で定める水道技術管理者が有すべき資格は、次のとおりとする。</u></p> <p><u>(1) 前条第1号に規定する学校において、同号に規定する課程及び学科目を修めて卒業した後、2年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(2) 前条第2号に規定する学校において、同号に規定する課程及び学科目を修めて卒業した後、3年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(3) 前条第3号に規定する学校において、同号に規定する課程を修めて卒業した後、5年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(4) 前条第4号に規定する学校において、同号に規定する課程を修めて卒業した後、7年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(5) 第1号又は第2号の卒業生であって、学校教育法による大学院研究科において1年以上衛生工学若しくは水道工学に関する課程を専攻した後、又は大学の専攻科において衛生工学若しくは水道工学に関する専攻を終了した後、第1号の卒業生にあつては1年以上、第2号の卒業生にあつては2年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(6) 前条第8号に規定する試験に合格した者であって、1年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(7) 前条第1号、第3号及び第4号に規定する学校において土木工学以外の工学、理学、農学、医学若しくは薬学に関する学科目又はこれらに相当する学科目を修めて卒業した後、同条第1号に規定する学校を卒業した者については4年以上、同条第3号に規定する学校を卒業した者については6年以上、同条第4号に規定する学校を卒業した者については8年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(8) 10年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</u></p> <p><u>(9) 第1号、第3号及び第4号に規定する学校において、工学、理学、農学、医学及び薬学に関する学科目並びにこれらに相当する学科目以外の学科目を修めて卒業した後、第1号に規定する学校の卒業生については5年以上、第3号に</u></p>

現 行 条 例	改 正 条 例
<p>第7章 補則 第35条 略</p>	<p>規定する学校の卒業者については7年以上、第4号に規定する学校の卒業者については9年以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</p> <p>(10) 外国の学校において、第2号に規定する学科目又は前号に規定する学科目に相当する学科目を、それぞれ当該各号に規定する学校において修得する程度と同等以上に修得した後、それぞれ当該各号の卒業者ごとに規定する最低経験年数以上水道に関する技術上の実務に従事した経験を有する者</p> <p>(11) 厚生労働大臣の登録を受けたものが行う水道の管理に関する講習の課程を修了した者</p> <p>第8章 補則 第38条 略</p>